

2026年9月2日鰯ヶ沢町南金沢地区で 発生した土砂災害について（速報）



調査日：2026.9.25

2026年9月の大雨に係る被害
に遭われた皆様へ、心よりお
見舞い申し上げます。

（ツォウ チンイン）

農学生命科学部 鄒 青穎
大学院地域共創科学研究科 小岩 直人

斜面崩壊の調査結果

調査地周辺には、谷底との比高が約35 mの段丘面と段丘崖が分布している（図1）。崩壊前の地形図から、段丘崖沿いには過去の崩壊跡と考えられる地形が複数認められる（図1）。

調査地周辺の基盤地質は、上部中新統～鮮新統の赤石層に属する、厚板状でやや珪質な泥岩から構成される（平山・上村, 1985）。現地観察から、赤石層と不整合で覆う段丘構成層の層厚は5～10 m程度と推定される。

赤石層の泥岩は、**NNE**走向、東傾斜**15～20°**を示し、段丘崖に対して受け盤構造を呈している（図2）。

今回確認された斜面崩壊は、以下の特徴を有する。

- 崩壊は段丘崖の急斜面で発生しており、規模は小さく、崩壊深も約1 mと浅いことから、表層崩壊と考えられる（図3）。
- 調査地の段丘崖は受け盤構造を呈しており、地層面に沿った深部のすべりは発生しにくいと考えられる。一方、段丘崖は急傾斜であることから、豪雨による間隙水圧の上昇や岩盤の割れ目への浸透水、泥岩の風化・軟弱化などによって表層部が不安定化し、今回の表層崩壊が発生したものと考えられる。
- また、今回の崩壊地は既往崩壊地内に位置しており、残存する崩壊堆積物の再移動も認められることから、新たな表層崩壊に加えて、既往崩壊堆積物の不安定化が土砂移動に関与した可能性がある。

二次災害防止に関するアドバイス

- 今回確認された崩壊は、取水堰付近の段丘崖の急斜面に位置する既往崩壊地内で発生しており、一部では残存する崩壊堆積物の再移動も認められる。このため、今後まとまった降雨があった場合には、新たな表層崩壊の発生や、既往崩壊堆積物の再移動・流下に注意する必要がある。
- 今後の二次災害を防止するため、降雨時および降雨後は今回の崩壊地やその直下への立入りを避けることが望ましい。また、斜面上部や周辺で新たな亀裂、地盤の沈下・隆起、落石、倒木、濁水や湧水の増加などの変状が認められた場合には、斜面に近づかず、速やかに関係機関へ連絡することが重要である。
- 特に、大雨が予想される場合や長雨の後には、崩壊地周辺だけでなく、斜面下方の道路・宅地・農地等への土砂流出にも注意し、必要に応じて早めに安全な場所へ避難することが望まれる。

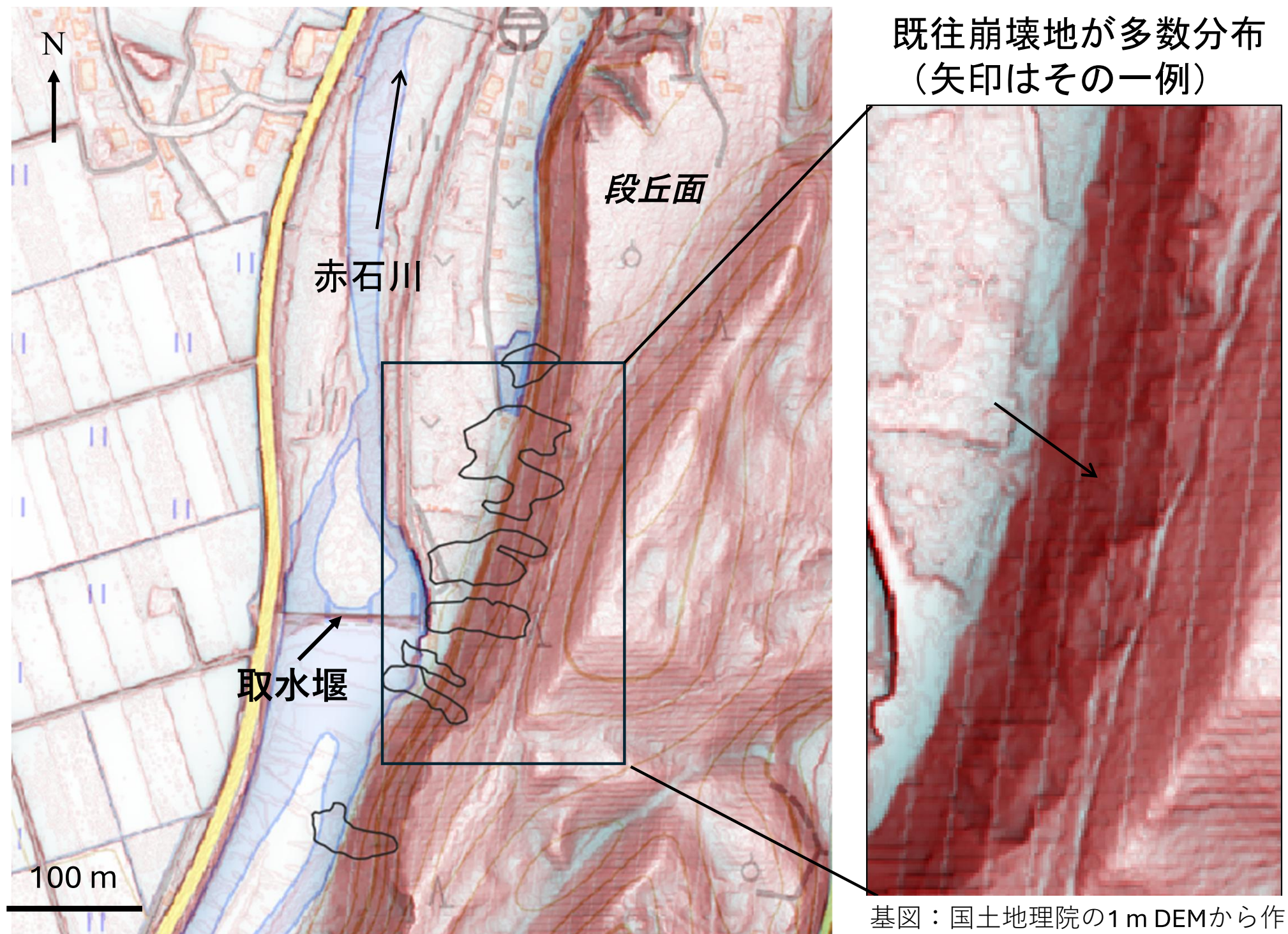
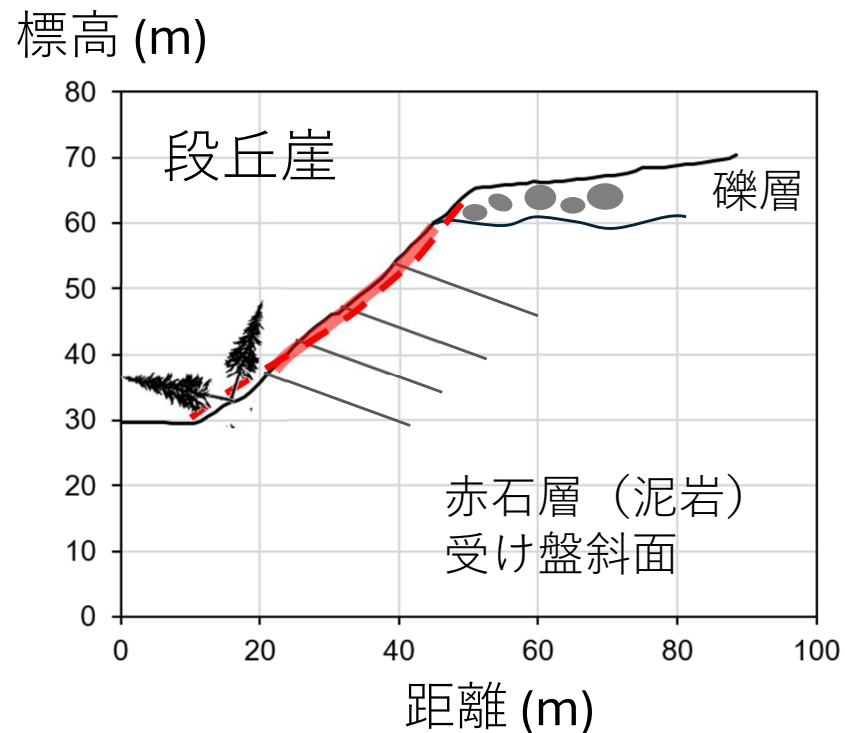
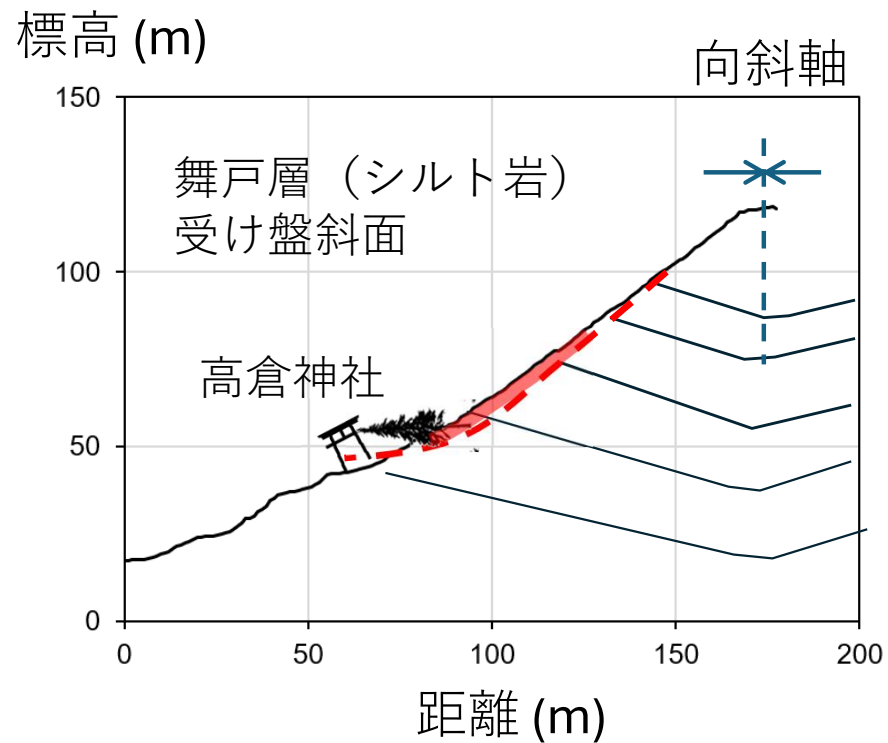


図1 調査地周辺の地形及び斜面崩壊の分布

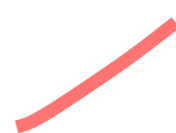


南金沢地区



日照田地区

凡例



既往崩
壊地



2026年9月
の崩壊地

図2 斜面崩壊模式図



図3 斜面崩壊の発生状況

崩壊斜面に認められる褐色の変色は、岩盤の割れ目に浸透した水と岩石との反応に伴う酸化によって生じた可能性がある。

(参考) 崩壊土砂の堆積状況



(参考)

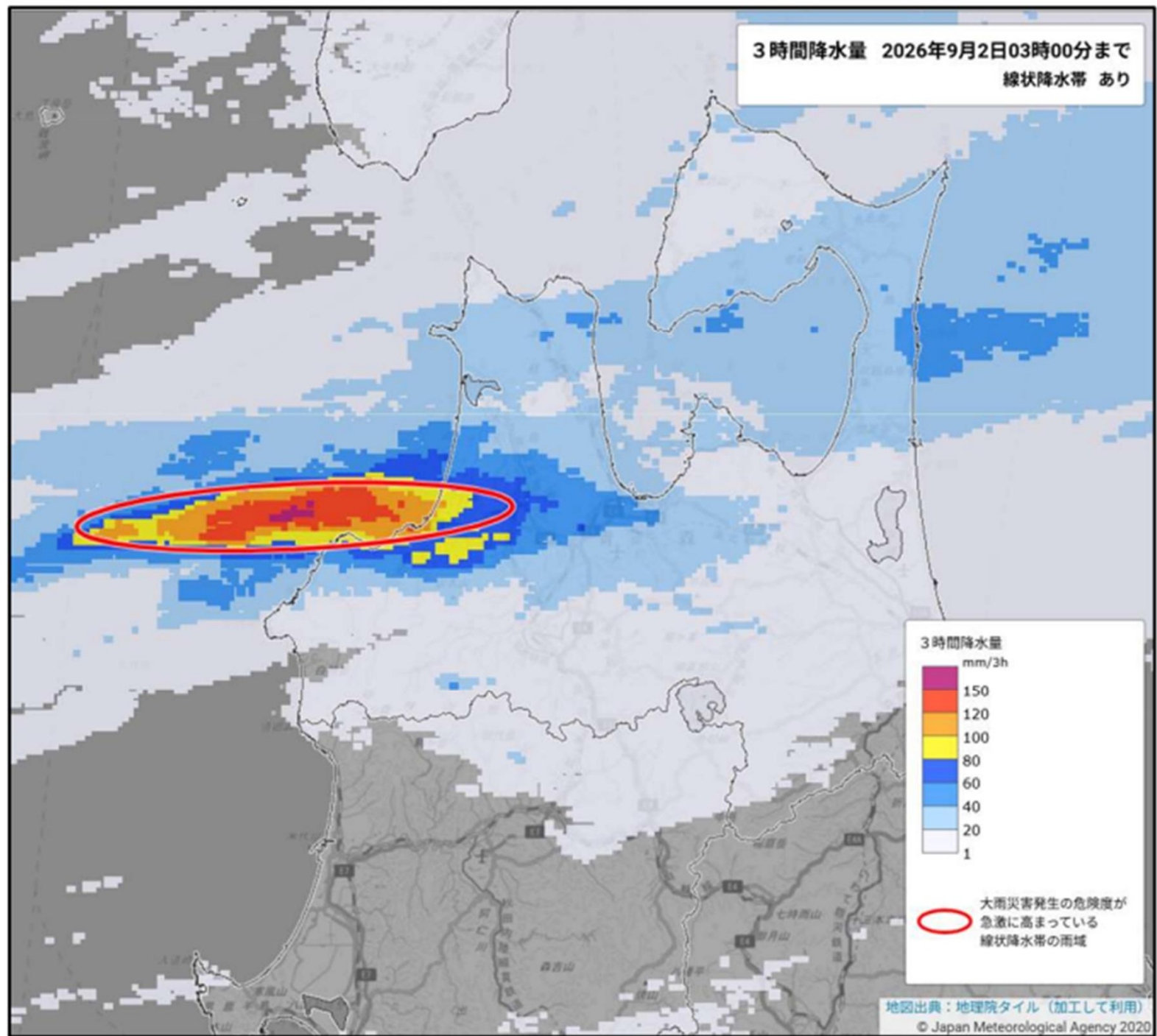
被災前



被災後

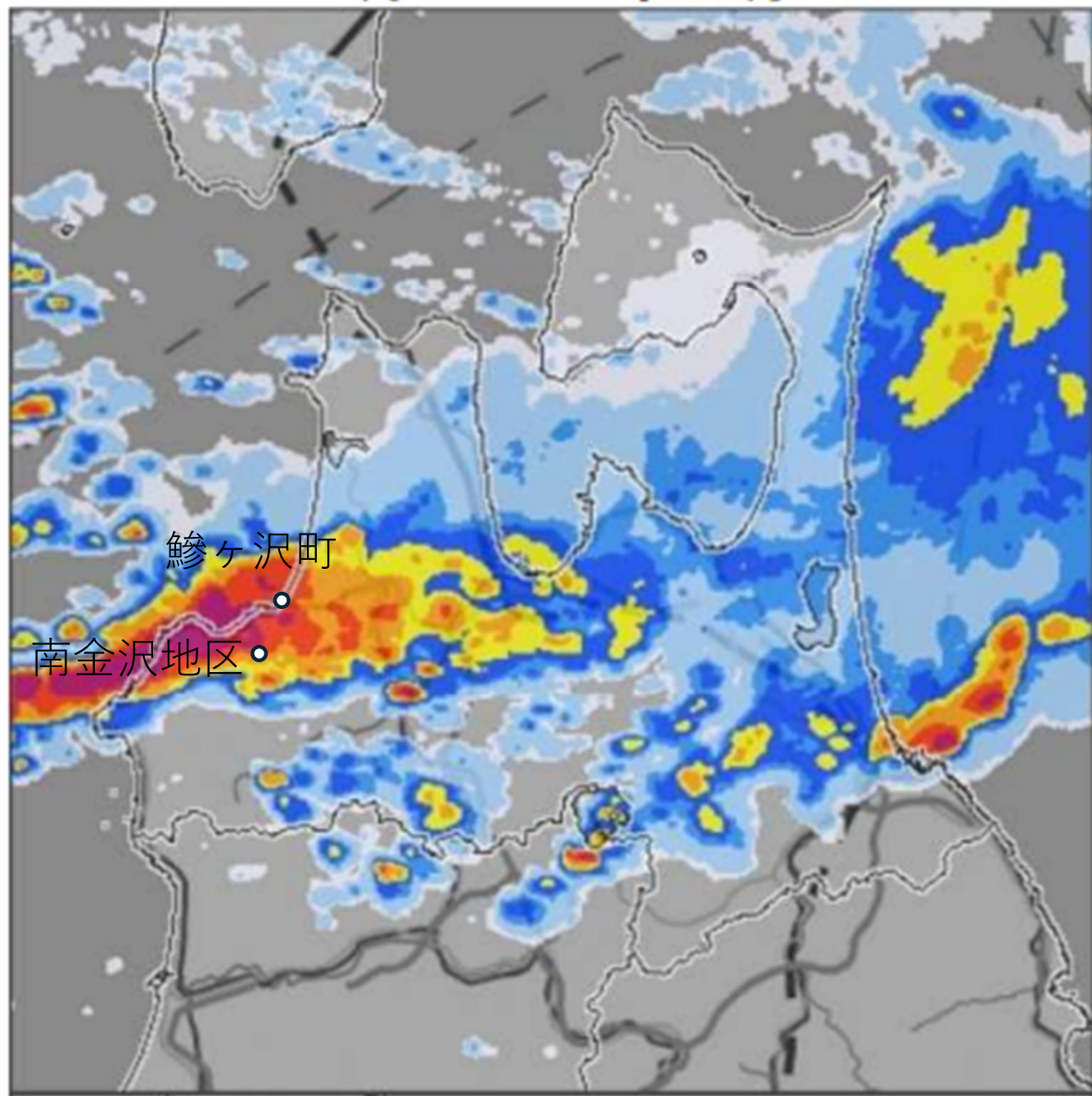


(参考)



(参考)

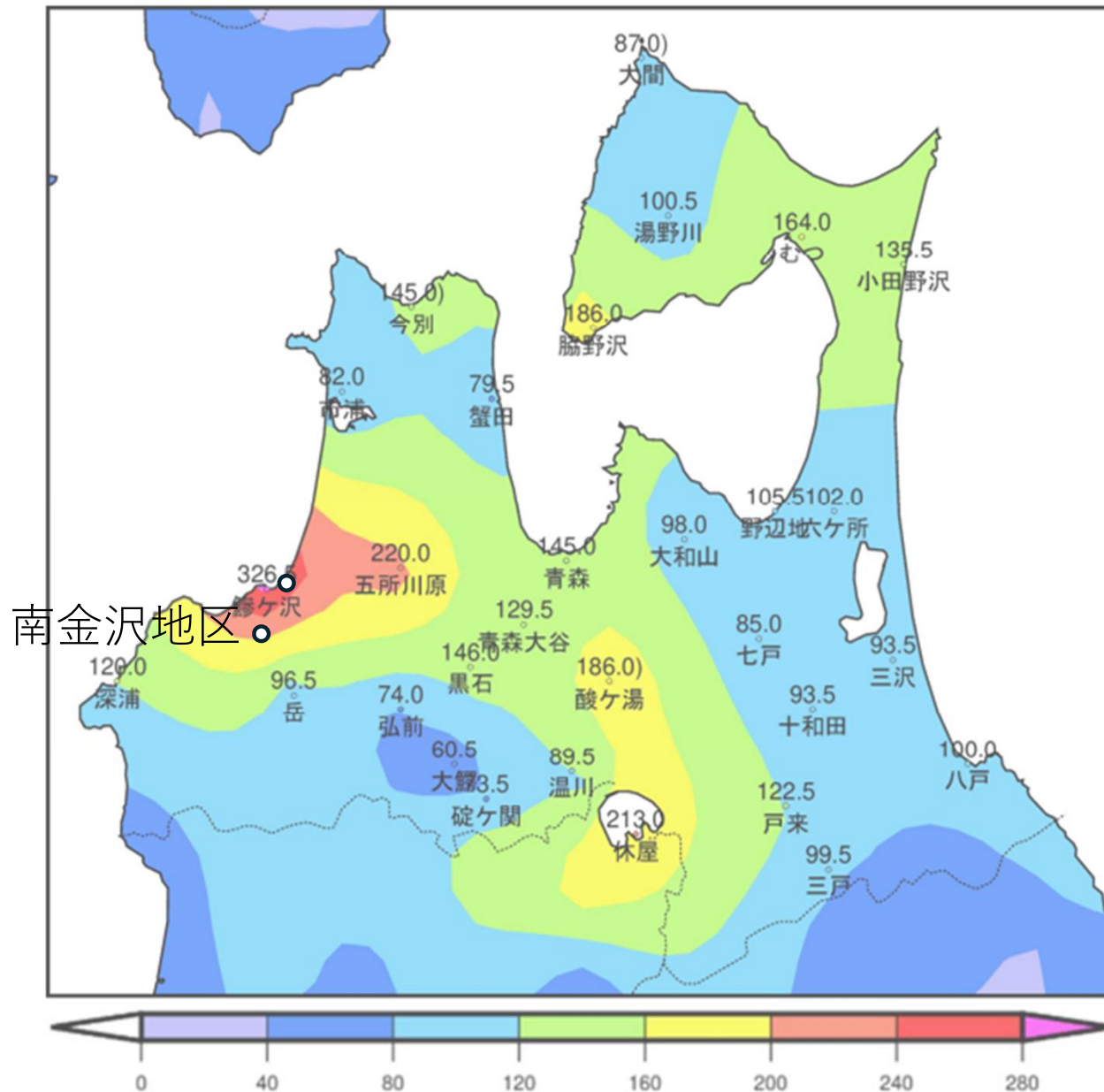
9月2日03時00分



青森地方気象台

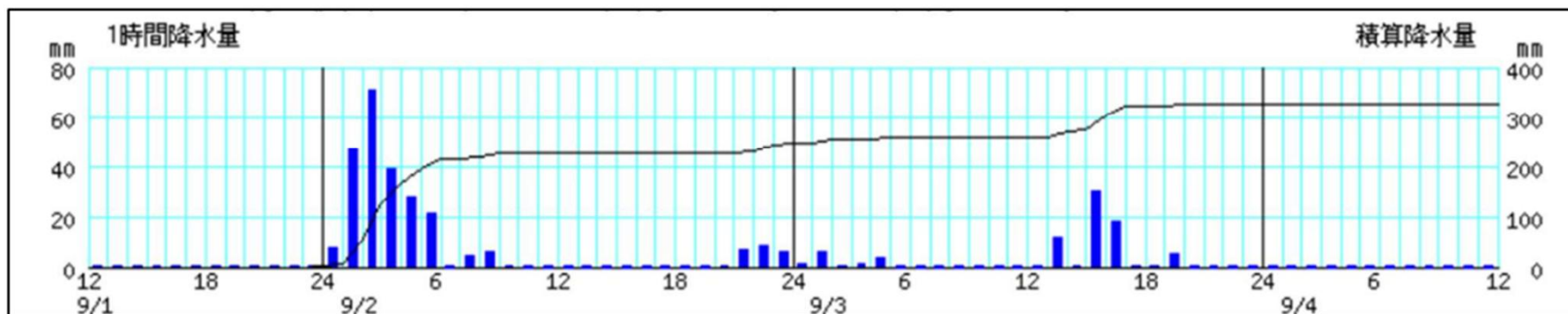
(参考)

4 総降水量分布図 (9月1日12時~9月4日12時) (単位: ミリ)



(参考)

・ 鰺ヶ沢（鰺ヶ沢町）



8 極値の更新状況（観測史上 1 位の記録を更新）（9 月 1 日～9 月 4 日）（単位：ミリ）

※地域気象観測所の降水量の最小単位は 2008 年 3 月 25 日まで 1 ミリ (2008 年 3 月 26 日から 0.5 ミリ)

・ 1 時間降水量の期間最大値

観測地点	市町村	更新した値(月日時分)	これまでの 1 位(年月日)	統計開始
鰺ヶ沢	鰺ヶ沢町	82.0(9 月 2 日 03 時 12 分)	52.0(2020 年 9 月 4 日)	1976 年
酸ヶ湯	青森市	63.0(9 月 2 日 23 時 55 分)	52(2006 年 8 月 18 日)	1976 年
今別	今別町	59.5(9 月 3 日 15 時 23 分)	58(2006 年 8 月 18 日)	1976 年